

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 29 年 6 月 23 日現在

機関番号：25301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26350058

研究課題名(和文) 保育施設を拠点とした父親の育児参画支援プロジェクトの構築

研究課題名(英文) Structure of Support Projects for Fathers' Participation in Child-rearing based on Child-rearing Facilities

研究代表者

柏 まり (KASHIWA, Mari)

岡山県立大学・保健福祉学部・准教授

研究者番号：30373145

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、父親の育児参画に焦点化し、保育施設を拠点とした父親への子育て支援プロジェクトを構築することを目的とした。保育施設を拠点とした育児ソーシャル・サポートに関する測定尺度を開発し、父親の育児参画には精神的サポートが重要であり、育児ソーシャル・サポートの満足度が高い父親は育児への肯定感も高い傾向があることが明らかとなった。父親への育児支援を継続的に実施するには、支援スタッフの確保、専門的知識の習得等、地域や大学と連携した支援が不可欠であることも明らかとなった。保育施設と地域との連携が拡充し、父親支援が安定的に提供されることで、父親の積極的な子育てへの参画が可能となるものと考えられる。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this research was to structure support projects for fathers' participation in child-rearing based on child-rearing facilities. This research developed a measurement scale concerning social support for child-rearing based on child-rearing facilities and that the fathers who were highly satisfied with their social support in child-rearing tended to have a positive view on fathers' participation in child-rearing. However, it was also clarified that in order to continuously provide child-rearing support for fathers, it is indispensable to ensure enough support staff, learn specialized knowledge and skills and obtain the cooperation from communities and universities for the support. It is considered that fathers' positive participation in child-rearing becomes possible when the cooperation between child-rearing facilities and communities is enlarged and stable support is provided to them.

研究分野：幼児教育・保育

キーワード：子育て支援 父親の育児参画 育児ソーシャル・サポート ワーク・ライフ・バランス 保育施設

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 少子高齢化を迎えている今日、女性と男性がともに社会に参画し、性別にとらわれることなくいきいきと充実した人生を送ることができる男女共同参画社会を築くことが重要な国民的な課題となっている。

平成 16 年に男女共同参画会議の下に設置された「少子化と男女共同参画に関する専門調査会」において、仕事と家庭の両立支援や働き方の見直しなどが、男女共同参画の推進と少子化対策の両方にとって重要であることが確認され、平成 19 年にはすべての人を対象にした「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス; 以下、WLB)憲章」・「仕事と生活の調和推進のための行動指針」が策定された。

(2) 少子化の観点から子育て世代の両立支援に特化するならば、子育て期の女性の社会進出を推進することが重要となる。しかし、わが国においては共働き家庭であっても子育てに係る負担の大部分を母親が担っているという実情がある。

父親の育児参加の促進率は、厚生労働省が示している目標値には依然として届いていない状況である。家庭内での育児に係るバランスが取れていないことが、子育ての「孤育て(母親が孤立した状態で子育てに従事)化」の要因となっており、児童虐待の一因となっているとの指摘がある。

子育て期の父親・母親のWLBを実現することこそ、家庭内での育児に係るバランスをとることになり、「孤育て」を解消するものと考えられる。

## 2. 研究の目的

(1) 本研究は、第一に、子育て家庭における父親・母親の育児に係る実情をWLBの観点から明らかにし、父親の育児参画が推進されるような子育て支援施策の検討を行うものである。しかし、先行研究を通して父親を含んだ親の育児ソーシャル・サポートに関する意識を測定する尺度が開発されていない点が明らかとなった。そのため、子育て支援に特化した育児ソーシャル・サポート尺度を開発し、父親・母親の子育て意識との関連性について明らかにする。

(2) 第二に、父親の育児参画を促進し、子育て家庭における子育て自助の力の向上を目指して「父親の育児参画支援プロジェクト」を構築する。子育て支援の一層の役割が求められている今日、保育施設を拠点とした支援策に特化し、父親の育児モデルとして男性保育者に着目した父親のための育児支援プログラムの開発を目指す。その際、これまでの子育て支援策は保育施設における保育カリキュラムとの整合性が十分はかられていなかったため、保育カリキュラムと連携が取られた子育て支援プロジェクトを構築する。

本研究は、父親・母親のWLBの実現、子育て支援と保育カリキュラムの統合の観点から最終的に子どもの健全な育ちを目指すものである。

## 3. 研究の方法

(1) 本研究は、子育て期の父親・母親のWLBの実情を明らかにするために、全国規模の質問紙調査を実施する。

(2) 先行研究によって開発された育児ソーシャル・サポート尺度を手がかりとして、新たに保育施設に関する項目を追加し、保育施設を拠点とした育児ソーシャル・サポート尺度の開発を試みる。そのため、保育施設を拠点とした育児ソーシャル・サポート尺度の因子構造を最小二乗法による因子分析によって明らかにする。その結果得られた因子構造にそって下位尺度の係数を算出し、それらの内的整合性を検証し、信頼性について検討を試みる。

(3) 先行研究に基づき親の子育て感情を測定する2つの尺度(育児不安尺度、育児感情尺度)と本研究において開発された育児ソーシャル・サポート尺度を用いて相関分析を行い、親の子育て感情と育児ソーシャル・サポートの関連について顕在化する。

(4) 岡山県内における子育て支援の拠点施設を対象として質問紙調査を実施し、父親の育児参画支援の実施状況と父親の育児参画支援を行う上での課題について把握する。

(5) 父親の育児支援の礎となる男性保育者の役割に関する先行研究を概観し、男性保育者の役割意識について分析を行い、子育て支援における男性保育者の役割に関する観点を把握する。具体的には、先行研究より把握された男性保育者の役割に関する観点を基に、男性保育者の実践資料集を手がかりとして、実践資料集に掲載されたドキュメント内容の分析を行い、子育て支援における男性保育者の役割モデルについて実践的な視野からの構築を試みる。

## 4. 研究成果

(1) 子育て家庭に特化したWLBの現状及び育児ソーシャル・サポートの課題を明らかにするために、全国規模のWEB調査を実施した。調査の結果、回答数は、1133名であり、回答者全員が未就学児を有している子育て中の父親・母親であった。

本調査において、核家族世帯の一般化や少子家庭、父親の恒常的な残業に伴う母親への育児負担が偏る子育て家庭の実情が明らかとなった。特に共働き家庭においては仕事と家庭の両立が難しいことが推察できる。

また、専業主婦家庭においても、父親の恒常的な残業や帰宅時間の遅延により母親へ

の育児負担の偏りは顕著であった。子育て支援が目指す方向性は、WLBの偏りが顕著である父親・母親の双方を子育て支援の対象として、子育て家庭の養育を補完する保育施設を拠点とした育児ソーシャル・サポートが必要と考える。

(2) 父親・母親の子育て意識と社会的支援との関連を明らかにするために、保育施設を拠点とした育児ソーシャル・サポートに関する測定尺度を開発した。

因子分析の結果、「保育の専門家による育児ヘルプ」因子、「精神的サポート」因子、「居場所作り」因子、「短時間の託児」因子、「身近な人による育児ヘルプ」因子の5因子、計22項目からなる「保育施設を拠点とした育児ソーシャル・サポート尺度」が開発された。分析によって得られた各因子についてCronbachの係数を算出したところ、作成された尺度には一定の信頼性が備わっていることが確認された。

以上により、本研究において作成された保育施設を拠点とした育児ソーシャル・サポート尺度は、未就学の乳幼児を有する親の育児支援ニーズを測定するに相応しいものであると考えられる。

(3) 本研究において作成された育児ソーシャル・サポート尺度を用いて、父親・母親の子育て意識と育児ソーシャル・サポートとの関係性について把握した。父親・母親の育児不安について、子育て家庭の実情に応じて、適切な育児ソーシャル・サポートを行うことが家庭内での育児に係るバランスをとることになり、子育て期の父親・母親のWLBの実現に繋がるものと考えられる。

未就学児を持つ父親・母親の育児不安と育児ソーシャル・サポートとの関係性の諸相から、子育て中の父親は配偶者からの精神的サポートと同年代の子どもや親との交流の機会に関する居場所づくりが、否定的育児感情の緩和や肯定的育児感情を高める一因となることが分かった。

(4) 岡山県下の地域子育て支援拠点176拠点を対象に質問紙調査を行い、有効回答拠点数の総数55拠点について分析を試みた。回答が得られた拠点施設において、父親支援プログラムを行っている拠点は少なく、半数以上の拠点施設が父親支援プログラムを行っていないことが確認された。父親支援の必要性については、約7割の拠点が感じていると回答していた。必要性を感じている拠点施設が多いのにも関わらず、父親支援プログラムの実施に至っていない拠点施設が多いことが明らかになった。

父親支援プログラム実施する上で、課題・困難だと感じることとして、「父親支援プログラムの内容」、「プログラム開催の日程」に関する意見が挙げられた。専門機関との連携

や父親支援の知識を得る機会の少なさを課題とする支援者も把握された。支援者の自由記述から、父親が参加したいと思う魅力的なプログラムづくりへの熱意は感じられるものの、「方法がわからない」、「日程調整(平日開催では父親の参加が少なく、土日開催では支援者の数が不足する)の難しさ」が顕在化した。

父親支援プログラムを実施する上で、支援者が最も必要だと感じているものは「利用者側の活動の希望やニーズに関する情報の収集」であった。父親支援プログラムを実施するためには、父親のニーズの把握が最も必要であると考えられる支援者が多いことがわかった。また、支援者側への父親支援の知識や情報提供の機会を持つことが必要と考える支援者も多く、父親支援を行っていきたい拠点に対しての研修会や勉強会の場の数を増やしていくことも必要な取組の一つといえる。

代表的な父親の育児参画支援プログラムの内容を分析すると、父親が子どもと一緒に体を動かしたり、簡単な工作をしたりする「子どものとの触れ合う機会」を重視している活動が顕著にみられた。また、保育園の行事と関連付けた取り組みもみられ、保育カリキュラムと接続させることにより、父親の参加を促進させようとする意図が感じられた。その他、父親向けの勉強会や講演会も行っている拠点施設もあり、父親のニーズを把握しながら、拠点施設の特性を生かした多様な内容で父親支援プログラムを実施していることが明らかになった。

父親の育児支援を実施する経緯は、「県や市から委託されたこと」、「母親・父親自身のため」という意見が多く挙げられた。県や市から委託事業として始めたことがきっかけで継続的な父親支援プログラムの開催に繋がっていることが確認された。地域や研究機関等が連携して父親の育児参画支援プロジェクトを構築することで、潜在的に必要とされている父親の育児支援の拡充に寄与するものと考えられる。

(5) 本研究では、父親の育児支援の礎となる男性保育者の役割に着目した。先行研究より把握された男性保育者の役割に関する3つの観点(観点1:第二の家庭の父母、観点2:保育の偏りを是正する者、観点3:子どもの発達を促す者)を基に、男性保育者の実践資料集についてドキュメント分析を行い、子育て支援における男性保育者の役割モデルについて実践的な視野からの構築を試みた。

男性保育者に内在する役割意識について検討を行った結果、先行研究により把握された3つの観点とは異なる、新たな観点が析出された。新たな観点は、男性保育者としての存在自体に価値をもたせ、子育てに携わる自然な存在として位置づけている点が特徴的であった。男性保育者は、男性保育者としての役割を周囲から期待されていることを受け

止め、男性保育者としての「価値」に気づき、積極的に役割を担おうとする姿があった。

新たに把握された観点を、観点3として再構成し、観点3を「性役割意識から脱却する育児モデル：新たな価値の提供」と定義することとした。新たな観点を加えた、男性保育者の段階的变化については以下に示した通りである。

第二の家庭の父母：身体を使う保育

保育の偏りを是正する者：男性の視点を強調した保育

性役割意識から脱却する育児モデル：新たな価値の提供

子どもの発達を促す者：子どもの発達を促すための働きかけ

本研究により把握された男性保育者の役割に関する4つの観点を構成要素として、子育て支援を支える男性保育者の役割モデルの構築を試みた。構築された役割モデルについては、図式化し、図1に示した。

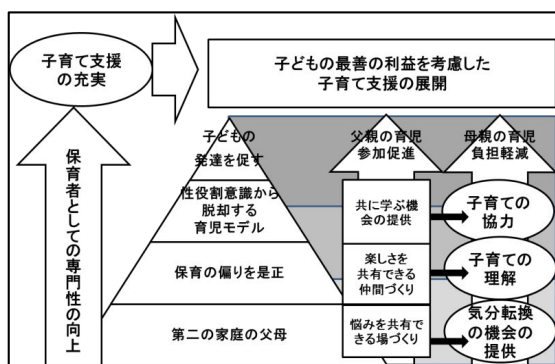


図1：子育て支援を支える男性保育者の役割モデル

父親の育児参加が促進することは、同時に母親の育児負担を軽減させることにも繋がるであろう。男性保育者が第二の家庭の父母として子どもとかかわる姿に触れることで、父親は男性保育者に共感的な感情を抱くのではないだろうか。また、男性保育者の支援により、父親が保育施設において自分の思いを「語る」場を持ち、父親同士が思いを共有する機会ができるであろう。子育て仲間と共に子育ての楽しさについて共有できる場があることで、子育てに対する関心が深まり、育児参加の機会がつけられる。

さらに、夫婦が共同で子育てに向き合い、父親の育児従事時間が増えることにより、夫婦で共有できる話題が生まれるであろう。こうした子育て自助により、母親の孤立化を解消できると考える。また、保育施設における取り組みを通して、子育て中の父親・母親が共に子どもとかかわり、子育てに関する様々な情報を共有することで、子育て公助の場ができる。保育施設が拠点となり、子どもの健全な育ちを保証した子育て支援を展開することが可能となる。

(6) 保育施設を拠点とした育児ソーシャル・サポートが目指す方向性は、子育て家庭が抱える支援ニーズを補完し、父親・母親と子どもが安心できる子育て環境づくりを支えていくことである。そのためには、子育て家庭の基盤である夫婦関係の大切さを再確認し、子育ての自助を高めることで家庭の養育力の向上と安定を図ることが不可欠である。そこから、子育て家庭を支える親族や親しい友人からの支援が得られる関係性をつくり、父親・母親が共に地域と繋がる力を育てることで子育て共助機能が促進するものとする。さらに、子どもが健やかに育ち、全ての親が子育てを楽しむことで地域との関わりも積極的になるのではないだろうか。こうした、子育て中の親が地域コミュニティの中で活躍できる社会の仕組みづくりにおいて、地域の子育て支援拠点である保育施設の果たす役割は大きいと考える。

#### <引用文献>

手島聖子、原口雅治(2003). 乳幼児健康診査を通じた育児支援 育児ストレス尺度の開発. 福岡県立大学看護学部紀要、1:15-27.

荒巻美佐子「育児感情尺度」堀洋道(監修)、松井豊、宮本聡介(編)『心理測定尺度集 現実社会とかかわる<集団・組織・適応>』サイエンス社、2008、pp.219-224. 中田奈月・前迫ゆり・智原江美・石田慎二・高岡昌子・福田公教「奈良佐保保育所における男性保育の実態と課題」奈良佐保短期大学紀要、第12号、pp56-57、2004.

#### 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計5件)

柏 まり、佐藤 和順、保育施設を拠点とした育児ソーシャル・サポートの可能性、家庭教育研究、第22号、査読有、2017、<http://hesoj.com/activity/>

柏 まり、幼児期における宗教的情操感育成のための海外研究、第25号、査読無、2017、印刷中

柏 まり、岩佐 和典、佐藤 和順、保育施設を拠点とした育児ソーシャル・サポート尺度の開発、岡山県立大学保健福祉学部紀要、第23巻1号、査読無、2016、33-39、DOI/10.15009/00001967

柏 まり、佐藤 和順、子育て支援における男性保育者の役割に関する一考察、就実論叢、第45号、査読無、2016、275-186、<http://repository.shujitsu.ac.jp/metadata/204>

柏 まり、佐藤 和順、外国籍の子どもの教育・保育の質を保障する支援体制構築

に関する研究 0 県内保育施設における  
就園状況を手がかりにして、教育学研  
究紀要、第 62 巻、査読無、2016、566-571

〔学会発表〕(計 7 件)

柏 まり、佐藤 和順、保育施設を拠点と  
した育児ソーシャル・サポート尺度を用  
いた子育て支援の可能性、一般財団法人  
日本保育学会第 70 回大会、2017.5.21、  
川崎医療福祉大学(岡山県・倉敷市)

柏 まり、幼児期における宗教的情操感育  
成のための海外研究、日本仏教教育学会  
第 25 回学術大会、2016.12.3、愛知学院  
大学(愛知県・名古屋市)

柏 まり、佐藤 和順、乳幼児期の子育て  
家庭を支える育児ソーシャル・サポート  
に関する研究、日本乳幼児教育学会第 26  
回大会、2016.11.26、神戸女子大学・神  
戸女子短期大学(兵庫県・神戸市)

柏 まり、佐藤 和順、外国籍の子どもの  
教育・保育の質を保障する支援体制構築  
に関する研究 0 県内保育施設における  
就園状況を手がかりにして、中国四国  
教育学会第 68 回大会、2016.11.6、鳴門  
教育大学(徳島県・鳴門市)

柏 まり、佐藤 和順、保育施設を拠点と  
した育児ソーシャル・サポートの可能性、  
日本家庭教育学会第 31 回大会、2016.8.20、  
貞静学園短期大学(東京都・文京区)

柏 まり、乳幼児期の親を対象としたソー  
シャルサポート尺度の開発 子育て家庭  
における育児ソーシャル・サポートの実  
態把握、一般財団法人日本保育学会第  
69 回大会、2016.5.7、東京学芸大学(東  
京都・小金井市)

柏 まり、佐藤 和順、保育施設を拠点と  
した父親の育児参画支援に関する考察、  
一般財団法人日本保育学会第 68 回大会、  
2015.5.10、椋山女学園大学(愛知県・名  
古屋市)

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：

種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等  
<http://www.m-kashiwa.com/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者  
柏 まり(KASHIWA, Mari)  
岡山県立大学・保健福祉学部・准教授  
研究者番号：30373145

(2) 研究分担者  
佐藤 和順(SATO, Kazuyuki)  
岡山県立大学・保健福祉学部・教授  
研究者番号：10413436

(3) 連携研究者  
( )

研究者番号：

(4) 研究協力者  
田中 亨胤(TANAKA, Yukitane)  
岩佐 和典(IWASA, Kazunori)